

1 学校教育目標

知徳体の調和のとれた教育活動の推進

- (1)主体的な学びを伸長する学習指導・進路指導の推進
- (2)望ましい人間関係づくりに向けた体験活動の充実
- (3)文武両道の継承と自主自立の精神の育成

〈中・長期目標〉 **伝統を継承し、相互の信頼感を深め、不断の努力によって学力の充実した心身ともにたくましい生徒を育成する。**

2 平成29年度に重点を置いて目指す目標・具体的方策

- ① **総務課**
学年・分掌・事務室等との連携による組織力の向上
- ② **教務課**
教育課程の充実と更なる研究
- ③ **生徒課**
文武両道を推進し、生徒と教師の信頼関係を基礎として、生徒自身が主体的に活動する特別活動の充実
- ④ **進路指導課**
個々の生徒に応じたきめ細かな進路指導の充実、主体的な学習への指導、教員の進路指導力向上
- ⑤ **教育相談課**
自己肯定感と人権意識を高める指導の充実
- ⑥ **図書視聴覚課**
読書活動の充実
- ⑦ **情報企画課**
校内外の情報資源の安全かつ有効な活用
- ⑧ **保健体育課**
たくましく生きるための体力の向上、望ましい人間関係づくり
- ⑨ **SSH・理数科**
科学部と理数科を中心とした学校全体でのSSH事業の実践による理数教育の先進的な取組の推進
- ⑩ **業務改善**
教職員が互いに支えあい、協働できる職場づくりの推進

3 自己評価						4 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	○学年・分掌・事務室等との連携による組織力の向上	学校行事等において、企画立案の段階から連携・調整を密にし、連帯感を強める。	4:十分に連携・調整ができ、連帯感が強まった。 3:連携・調整ができ、連帯感が強まった。 2:連携・調整が不十分であった。 1:連携・調整ができなかった。	4	学年・分掌・事務室等に対して情報提供、収集を十分にを行い、それに基づき連携・調整を行って行事の企画立案をすることにより、すべての行事を無事に実施することができた。特に、学校説明会では、十分な連携・調整の結果、今年度から会場の変更や施設・部活動見学にしっかりと対応することができた。	学校関係者からの意見をもとに、連携・調整を密にしており、教職員間の意志の疎通が図られている。 今後とも組織的な対応をお願いしたい。	A
教務	○教育課程の充実と更なる研究	生徒の進路実現に適切に対応する教育課程の編成により教育活動をスムーズに展開するとともに、実施により明らかになった課題について改善への研究を行う。	4:学年・教科間で生徒の特性を共通理解して、円滑な教育課程の編成と課題の改善への研究を行った。 3:学年・教科間で共通理解をして、円滑に教育課程の編成を行うことができた。 2:学年・教科間での共通理解が不十分だった。 1:生徒の特性を把握できなかった。	4	45分7限授業の教育課程が始まった。文系から医療系栄養系を目指す生徒への対応のため専門生物の選択の設定するとともに、3年生理系において公民の選択を可能とするなど、生徒の進路実現のために、教育課程の編成を、学年・教科・分掌の連携を図りながら行った。	授業アンケートの「授業の進度はちょうどいい」の項目において、昨年と比較して肯定的な意見が多く、45分7限授業がうまく機能している。 学習指導と特別活動のバランスを考えた教育活動を推進してほしい。	A
生徒指導・特別活動	○学年・分掌等との連携と、外部機関との関係強化による指導体制の強化	(生活指導) あいさつの励行、服装頭髪の清整、掃除の徹底などの「生活指導の4本柱」、および情報ルールやモラルの涵養、交通安全意識の啓発を推進する。	4:毎朝校門で90%以上の生徒があいさつできた。 3:毎朝80%以上の生徒があいさつを交わした。 2:毎朝校門指導であいさつしない生徒が半数いた。 1:校門指導も実施せず、あいさつも徹底しなかった。	3	学年と連携を図って毎朝教職員が校門で立哨することにより、多くの生徒が挨拶を交わすことができるようになった。明るく元気のよい挨拶であるとなお良かった。情報ルールやモラルに関しては意識の低い生徒がいたので、継続的に根気強く指導していくことが今後の課題である。	登下校時の挨拶運動などにより、多くの生徒が気持ちのよい挨拶ができるようになったことは成果である。一方で、学校評価アンケートの「徳高生はよくあいさつをする」の項目において、保護者、教職員の評価と比較して、生徒の評価が低く、改善が必要である。これまでの取組を引き続き行うとともに、教職員と生徒がどちらからともなく元気に挨拶ができるような指導をしてほしい。 二大行事は、本校の生徒にとってかけがえのない行事である。大学受験を目前に控えた3年生にとって不安がある時期ではあるが、その時代にあったものに変えていくなどの工夫をしながら伝統を継承してほしい。	B
		(特別活動) 生徒自身が主体的に活動できる場面に作り、二大行事を中心として本校ならではの文化を発展的に継承する。	4:行事が成功し、生徒全員が成長した。 3:80%以上の生徒が満足できる行事となった。 2:生徒の自主活動や意欲が低調だった。 1:50%以上の生徒が不満を抱え見直しが必要である。	4	学年・分掌と連携を図り、生徒自身が主体的に活動できる場面づくりに努めた。生徒自身が学校行事を企画・運営することにより、生徒の自己有用感や連帯感が育った。特に二大行事では、生徒会執行部や実行委員を中心に多くの生徒が積極的に活動し、豊かな社会性や人間性を磨くことができた。		
進路指導	○個々の生徒に応じたきめ細かな進路指導の充実、主体的な学習への指導、教員の進路指導力向上	(1年次生) 「予習・授業・復習」サイクルによる学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	4:学習習慣が定着し、学力が向上した。 3:学習習慣が定着した。 2:成果があまり見られなかった。 1:成果がほとんど見られなかった。	4	入学当初の学習オリエンテーションの実施や手帳を全員に持たせることなどにより、自己管理能力、学習計画力に向上が見られた。授業改善、補習、課外や面談を通して、学習習慣が定着し、基礎学力が向上した。また全体的に学力が入学時に比べて上昇している。	魁講座や各種講演会で生徒の将来の動機付けが実践できていることは、十分に評価できる。 個別指導にも力を入れており、保護者として大変感謝している。 進学指導や学習指導と行事などの特別活動とは、相反するものではなく互いに高めあうための相乗効果が期待できるものであり、本校はそれができる能力を有している集団であることを生徒たちに理解させるような指導をしてほしい。 今後とも、これまでと同様きめの細かい指導を心掛け、進路指導の更なる充実を図ってほしい。	A
		(2年次生) 学習計画、課外、模擬試験等の実施により、早期受験態勢の確立を図る。	4:受験への取組が十分できた。 3:受験への取組ができた。 2:成果があまり見られなかった。 1:成果がほとんど見られなかった。	4	本年度から2年次生にも手帳を持たせ、学習計画力の育成に努めた。夏季課外も今年度は全員受講とし、学年全体の学力向上を図った結果、模試の成績分析から学力の向上が見られた。進学説明会や面談等により、受験に向けての意識を高めることができた。		
		(3年次生) 課外、模擬試験、センター試験対策講座、小論文、面接指導等の実施により、受験学力の習得を図る。	4:受験に対応できる学力が向上した。 3:受験に対応できる学力が定着した。 2:成果があまり見られなかった。 1:成果がほとんど見られなかった。	4	6月からの課外、夏季課外(前期・後期)、9月からの課外(12月まで)の実施により、基礎学力及び受験学力の向上が見られた。センター試験、個別試験、小論文に対応した講演会、講座を実施し、受験に対応できる学力を身に付けさせることができた。また、各種模試を積極的に受験させ、その結果から学力、受験に対する意欲の向上が見られた。		

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教育相談	○自己肯定感の涵養と諸問題に対する早期発見と早期対応	学年や保護者、他の分掌との連携をとり、生徒の変化を見逃さず、また実態調査等により生徒の状況把握を行い、適切な対応を行う。	4:連携して十分な対応ができた。 3:連携して対応ができた。 2:連携して対応できなかった。 1:状況把握ができなかった。	4	多くの生徒は学校生活を楽しみ、学習や部活動、学校行事に意欲的に取り組んでいるものの、学習や人間関係から悩んだり、自信を失っているものがあることから、学年や担任、そして親やスクールカウンセラーと連携をとりながら、生徒一人ひとりの状況を踏まえた対応を行った。	生活意識調査から、多くの生徒は、悩みはあるものの楽しく学校生活を送っていることが窺える。状況に応じてスクールカウンセラーの来校回数を増やすなどの工夫をしてほしい。	A
図書視聴覚	○読書活動の充実	読書推進のための情報提供と図書配架を行う。	4:活動状況は例年より好調であった。 3:活動状況は例年並みであった。 2:活動状況は例年より低調であった。 1:活動状況は顕著に低調であった。	4	読書感想文コンクールでは、5人中4人が山口県コンクールに地区から推薦され、県コンクールでは、数少ない学校優良賞を受賞した。	今年度の取組として、充分成果が出ている。今後とも、読書活動の推進に尽力いただきたい。	A
情報企画	○可用性の維持と安全性の向上	校内およびインターネット上の情報・設備・システムを安全かつ有効に活用できるよう、生徒及び教職員との連携を密にする。	4:連携と運用は完全であった。 3:現段階では特に問題はない。 2:今後改善すべき点がある。 1:運用に遅延や不足する部分が残った。	3	webページないしメールによる発信を定期的に行うことができた。機器の入れ替え時には、担当者間の連絡を適確に行い、CAI教室付随の生徒用設備・教員用LAN等の停止を翌日まで持ち越す事無く稼働することができた。事故発生時の対応と復旧の措置を更新する必要性が増している。	年次ごとに緊急メールが配信できるようにするなど、改善が進んでいる。日常の業務はスムーズに進んでおり、特に問題点はない。	A
保健体育	○たくましく生きるための体力の向上、望ましい人間関係づくり	運動等を通して仲間との連帯感を大切に、自己の体力と運動能力を向上させるとともに、自分の思いや願いを話すことや人との関わりができる生徒を育てる。	4:仲間と協力し、自主的・主体的に工夫して活動していた。 3:仲間と協力し、自主的・主体的に工夫して活動する生徒が多かった。 2:仲間と協力し、自主的・主体的に活動する生徒が半数程度だった。 1:仲間と協力し、自主的・主体的に活動しない生徒が多かった。	4	学校行事の中の体育的行事に関して、生徒は自主的・積極的に活動する姿が見受けられた。また、保健活動においても、保健委員を中心に健康の保持増進を目指す姿勢がうかがえた。特に日々の体育の授業においては、自ら意欲的に活動するとともに他者への気配り等も考慮しながら活動する姿が見受けられた。	運動会やマラソン大会等の体育的行事に本校らしさが発揮され、学校の活性化に寄与している。今後とも生徒の体力向上と健康の保持増進にあたってほしい。	A
理数科SSH	○学校全体でSSH活動に取り組み、理数教育の活性化を進める	理数科・科学部の活動を通して、科学・技術への理解を深める。	4:教育効果の高い活動が十分できた。 3:理数科・SSHの活動がほぼ予定通りできた。 2:理数科・SSHの活動の一部がやや遅れた。 1:予定していた活動ができなかった。	4	SSHに関しては、本年度新たに科学技術人材育成重点枠に採択され、本校生徒も含めた県内の高校生を対象に計8回の環境講座を実施した。理数科・科学部での課題研究については、高校総合文化祭などの外部発表の場に積極的に参加をした。また各種科学オリンピックに多くの生徒が参加をし、生物学オリンピックでは銅賞を受賞した。	SSHの新たな取組にも適切に対応するとともに、研究活動や地域貢献等にも活発に取り組んでおり、今年度の取組として、充分成果が出ている。	A
人権教育	○自己および他者の人権を理解し尊重する指導ならびに問題に対する早期対応	講演会の開催等により人権意識を高めるとともに、いじめ等の他者への人権侵害に関する実態調査を行い、生徒の状況把握と、関係各所との連携による早急な対応を行う。	4:取組により他者の人権に配慮し、主体的に行動がとれるようになった。 3:取組により他者の人権に配慮する意識が高まった。 2:取組により他者の人権に関心をもつようになった。 1:取組の成果が十分現れなかった。	3	講演会では、講師の方も感心されるほど熱心に講演に聴き入り、感想文の記載も主体的に取り組んだ。生活意識調査で実態を把握し、関係教職員で連携を取りながら人権意識の高揚に努めた。概ね人権へ配慮する意識は高まっているが、主体的に行動がとれるよう一層の取組を進めていきたい。	生徒が安心して学校生活を送っている様子が窺える。自己評価で達成度を3としているが、評価基準が高く見直しが必要である。今後ともいじめのない学校づくりを推進してほしい。	A
業務改善	○教職員が互いに支えあい、協働できる職場づくりの推進	報告・連絡・相談・提案を速やかに行うことで教職員が連携し、組織的な対応ができる体制を整える。	4:教職員が互いに支えあい、多くの事項で協働できた。 3:多くの事項で協働できた。 2:協働する機会が少なかった。 1:改善すべき課題が残り、協働することができなかった。	3	分掌や学年の主任を中心に、報告・連絡・相談・提案が速やかに行われたことで、学習指導・進路指導・生徒指導等を組織的に行うことができた。今後は、分掌間、年次間の連携を強化し、全教職員が共通認識を持ちながら協働できる体制を整えることが必要である。	大きな組織の場合、全教職員がコミュニケーションをとりながら連携していくことが大変であることは想像に難くないが、連携できる部分を精査して協働できる職場づくりを進めてほしい。	B

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

- ① **総務課**
事前に各分掌、各年次と十分な調整・連携の結果、すべての行事を無事に実施することができた。今後もさらに各行事を学校全体で協力・協調して取り組めるよう調整・連携をするとともに、本校についての情報発信をより進めていきたい。
- ② **教務課**
進学型単位制の完成年次の今年度、45分7限の授業形態を開始するとともに、教育課程の見直しを進めた。地域の期待に添える学校として、更なる努力を重ねていきたい。また、次期学習指導要領の新しい科目についても周知と理解を進めたい。
- ③ **生徒課**
登下校時の挨拶運動などにより、多くの生徒が挨拶を交わすことができるようになった。二大行事では、生徒会執行部や実行委員を中心に多くの生徒が積極的に活動した。今後も生徒自身が主体的に学校行事に取り組み、自己有用感を高められるよう働きかけたい。
- ④ **進路指導課**
3年間を見通しながら、各年次ごとに目標を設定し取り組むことにより、学習や進路に対する意識を高め、学力を向上させることができた。今後は、新しい入試制度に的確に対応し、個々の生徒の希望進路の実現のために尽力していきたい。
- ⑤ **教育相談課**
講演会・日頃の授業や特別活動などを通じて、生徒の人権意識の高揚に努めた。生活意識調査の実施や、担任、学年、保護者及び各分掌との連絡を密にすることで、問題を抱える生徒の早期発見に努め、対応をした。PTAの協力を得て保護者に対する講演会も行った。
- ⑥ **図書視聴覚課**
読書活動を促す様々な働きかけにより、読書量が増えた。また、各種小論文コンクールへの応募も本校の生徒は好成績を収めている。
- ⑦ **情報企画課**
校内外の情報資源の安全かつ有効な活用を図ることができた。
- ⑧ **保健体育課**
体育行事・保健活動等を通して、皆で協力して体力の向上、そして行事、授業等を進めようとする態度が十分に見受けられた。今後とも生徒の自主性をさらに高めることができるよう、継続指導していきたい。
- ⑨ **SSH・理数科**
県内連携校の協力を得ながら実施した「SSH科学技術人材育成重点校」事業においても十分な成果が得られ、他校へのSSH活動の普及がなされた。来年度以降も、理数教育の充実に向けて継続した取組をしていきたい。
- ⑩ **業務改善**
協働の体制はできているものの、共通認識をもつための会議等に時間がかかり、これらの時間を短縮する工夫が必要である。来年度4月に配付する各分掌の規程や様式をまとめた「校務の手引き」を有効に活用することで協議時間の短縮を図り、更なる業務改善を進めることが必要である。

6 次年度への改善策

- ・ 企画・立案の段階から各分掌との連携を図り、組織としての連帯感を高める。また、全日制・定時制・分校の連携体制の一層の推進を図る。
- ・ 変化の激しい社会情勢に的確に対応するため、今日的な教育課題についての研究を進める。
- ・ 授業改善に向けた取組や校内研修の実施により、主体的・対話的で深い学びについての研究・実践を推進する。
- ・ 新学習指導要領についての周知と理解を図るとともに、新しい入試制度への的確な対応に向けた情報収集と校内体制の強化を図る。
- ・ 生徒の主体的な活動、生活習慣の確立と体力の向上、望ましい人間関係づくりを推進し、自主自律の精神を醸成する。
- ・ 生徒が明るく元気に、活力のある学校生活を送れるよう、教員側からも積極的に挨拶や声かけに努める。
- ・ いじめ防止に向けた取組や実態調査、効果的な研修会・講演会等の実施により、人権尊重の意識を高める。
- ・ SSHにおける大学や企業等と連携や体験的・実践的な活動等により、生徒の思考力や表現力の向上を図る。
- ・ 本校活動状況の情報発信に向けて、各分掌・年次発行広報誌等やWebページ記事の充実にも努める。
- ・ 「校務の手引き」の有効な活用、年次・分掌等の連携の促進などにより、時間外勤務の縮減に向けて更なる業務改善を進める。